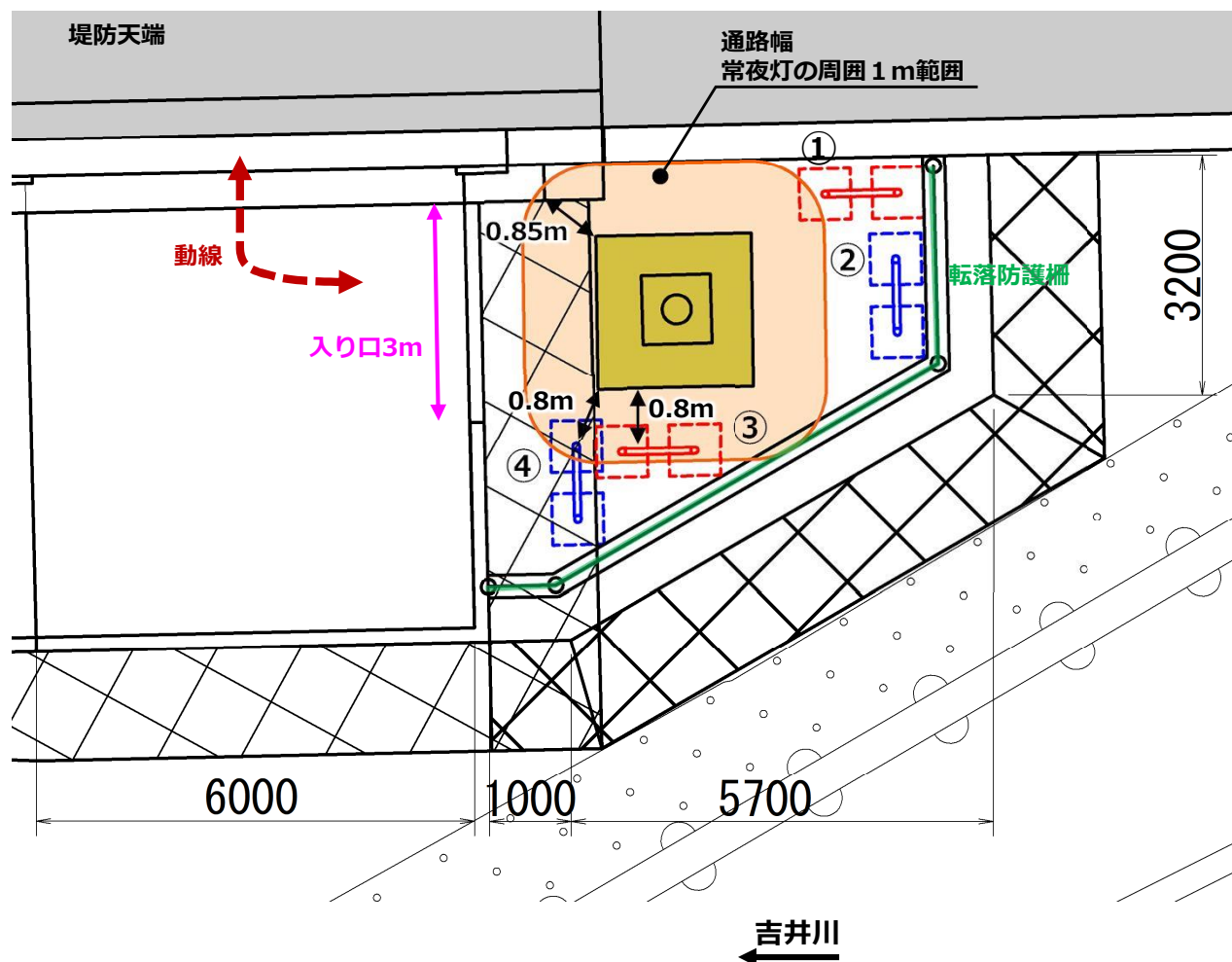


2) 説明看板について

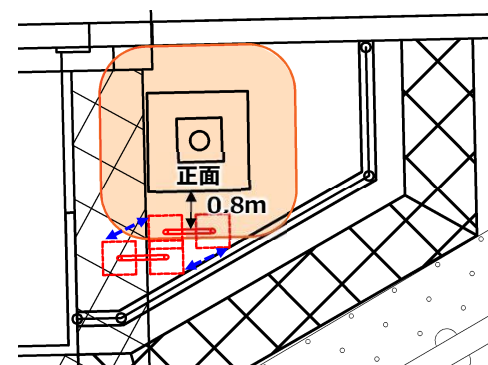
①土台天端の施設配置について

- 下流側の現況坂路は存置し、土台の構築を行う。**天端には常夜灯本体、転落防護柵、看板を設置する。**
- 常夜灯の設置位置は、坂路のブロック積の上部を避け、**常夜灯の周りは80cm以上(1.0mを基本)の通路幅**を確保した。
- 説明看板は、**旧九幡港常夜灯の歴史等を伝えることが目的**であるため、その配置位置は、周辺構造物との影響を考慮しながら、**一対である常夜灯と吉井川の景観を大きく損なわない**ように配慮する。

<天端の施設配置について>

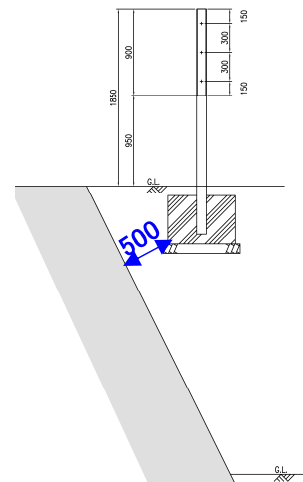


看板③について
坂路のブロック積上部を避け通路幅0.8mを確保



⇒位置が常夜灯の正面になる

看板④について
通路幅0.8mを確保し、可能な限り坂路ブロック積み上部を避けた案



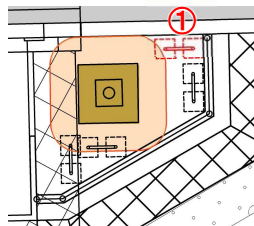
⇒ブロック積の上部を完全に避けることが困難である。基礎の下面に構造物があるため、土部分と変化の仕方が異なる

①土台天端の施設配置について

<看板配置ケースごとのイメージ>

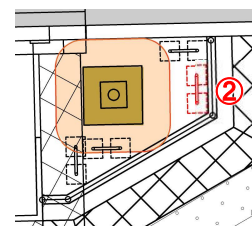
①の位置に配置

- ・常夜灯の正面と向きを合わせた案。
- ・土台の奥に入って、看板を見る必要があるが、入口となる坂路や堤防天端から見たときに、一対である常夜灯と吉井川の景観を遮らない。



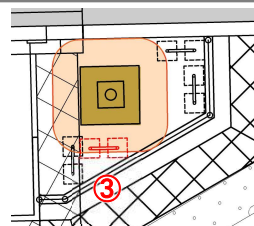
②の位置に配置

- ・土台の奥に入って、看板を見る必要がある。
- ・入口から見たときに、常夜灯で極力隠れる位置にすることで、常夜灯と吉井川の景観を遮らない用にした案。
- ・ただし、堤防天端から見たときには表示面が大きく目立つ。



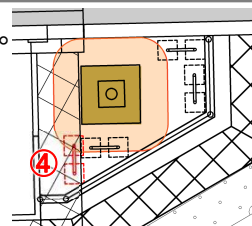
③の位置に配置

- ・入口付近で、基礎下面に異物となる構造物(土以外)が極力入らないようにし、常夜灯から80cm程度の通路幅を確保した案。
- ・常夜灯の正面を、引いた位置から見ることはできない。
- ・看板の表示面(表裏)を協議する必要がある。



④の位置に配置

- ・入口付近で、常夜灯から80cm程度の通路幅を確保した案。
- ・土台の構造上80cmを確保するには、これより奥への配置はできない。看板基礎下面に異物となるブロック積(土以外)がある位置への配置となるため、構造的には課題がある。
- ・来訪者には、入り口から最も視認しやすい位置である。

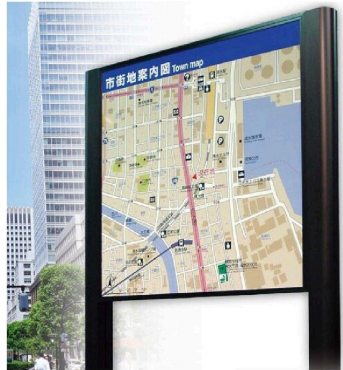


②説明看板の対応策について

- 看板の構造は、**縦型で支柱が丈夫なもの**（石材までは不要）とし、**表示面は消えにくい材質**のものを採用する。
販売されている看板は、**構造計算により基準を満足**する支柱を有したものであるため製品による強度の差はない。

<支柱のタイプ>

事例1 標準タイプ(支柱材質アルミ)



アルミ複合構造によるシステムサインで、低価格で充実したサイン計画を可能とします。

- 表示面には軽くて、強い「アルミ樹脂積層複合板」を採用。
- 表示面の交換が容易に行える高いメンテナンス性。

■アルミ樹脂積層複合板とは・・・

独自の技術開発による優れた複合効果を有するアルミ樹脂積層板です。

- 軽量** 軽量のアルミシートと発泡ポリエチレンの積層構造で比重が0.8以下と軽量です。
- 耐久** 面材のアルミシートに特殊塗装を施してありますので、耐久性・耐汚性性に優れています。
- 平滑** アルミと樹脂の積層構造で、剛性が高いため、ひずみが少なくフラット性に優れています。

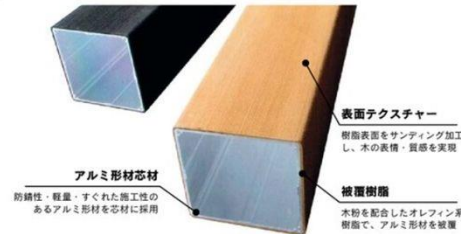
仕様

支柱：アルミ押出材/着色アルマイト（ダークブラウン/ツヤ消しクリア塗装）
表示板：アルミ樹脂積層複合板
枠材：アルミ押出材/着色アルマイト（ダークブラウン/ツヤ消しクリア塗装）

事例2 支柱周りに樹脂加工あり

木のあたたかみと木をしのぐ耐久性を持つ人工木（角型テnderウッド）を支柱に採用。
自然なやさしさのある軽量木質系サインシリーズ。

- 表示面には軽くて、強い「アルミ樹脂積層複合板」を採用。
- 表示面の交換が容易に行える高いメンテナンス性。



◆カラーバリエーション

サンドベージュ（標準色） チャコールブラック（受注対応） コーヒーブラウン（受注対応）



- 角型テnderウッド支柱
木質樹脂をアルミ材に被覆成形、木の表情、質感で超軽量・高強度を実現した人工木材。

◆耐久性・安全性

屋外での使用が可能な耐候性のある素材で表面を被覆し、耐水性にもすぐれます。

仕様

支柱：角型テnderウッド（□100×100）
表示板：アルミ樹脂積層複合板
表示枠材：アルミ押出材/着色アルマイト（ダークブラウン）+艶消しクリア塗装

道路標識設置基準に準拠して、構造計算を実施するため必要な強度を有するものとなっている。外観では事例2の支柱が太い。

<表示面のタイプ>

印刷面の加工

各印刷タイプの特長

標準タイプでも十分な性能を有しますが、難燃性への対策が必要な場合はオプションタイプをご選択ください。

	標準タイプ インクジェット印刷（耐候性ラミネート加工）	オプションタイプ（いたずら防止タイプ） インクジェット印刷（特殊コーティング加工）
参考印刷断面		
品質保証	○ 5年保証（無反射）	○ 5年保証（無反射）
清掃性	◎ シナー or アルコール使用可	◎ アルコール使用可
難燃性（タバコ）	—	◎ タバコのもみ消しに耐える

耐着性（貼紙防止）	○ 貼紙、シール、ガムテープ、ノリ等は容易に除去可能
防汚性	○ ラッカーズプレー、油性マジック等の落書きは清掃で除去可能
耐候性	屋外耐候10年相当

※耐候年数は、おおまかな目安であり、設置環境等により変化します。保証値ではありません。
※清掃時はアルコールの使用を推奨します。シナーの使用につきましては、取扱いに十分ご注意ください。
※オプションタイプ（いたずら防止タイプ）は耐熱ではなく、難燃程度となります。
※貼紙のノリの跡が残った場合は、アルコール等で清掃してください。

オプションタイプ（いたずら防止タイプ）の特長

オプションタイプの特殊コーティング加工は、タバコのもみ消しに耐える難燃性、表示面が傷つきにくい表面高硬度、貼紙が簡単にはがれる耐着性、落書き、いたずらに耐える防汚性を備え、清掃性に優れています。美しい表示面が長期間維持できる簡単メンテナンス機能を備えます。

- 難燃性
- 表面高硬度
- 耐着性
- 防汚性
- 清掃性

メンテナンス

- ・定期的な水洗いと乾拭き（年3～4回）が必要である。
（設置箇所環境条件・自然環境下では経年変化は避けられない。）

このほか、他社製品も多数あるため、この限りではない。

③説明看板の記載内容

- 文面は、**横書きで英語表記は無い**ものとし、**解体前や過去の九幡港の写真**を掲載する。
- また、位置情報や旧九幡港常夜灯以外の吉井川下流沿川の常夜灯群の情報が取得できる**QRコード**を掲載する。
- 記載内容については、**地元関係者で精査**いただき、決定する記載内容によって看板寸法を調整する必要があるため、**土台の工事前までに関係者で決定**する。

きゅう く ばん こう じょう や とう

旧九幡港常夜灯

よしながわ りゅうきがいほつ おかやまさんせん よしながわ あさひがわ たかはしがわ なか もつと はや
吉井川の流域開発は、岡山三川（吉井川、旭川、高梁川）の中で最も早く、

いずもちほう きんきちほう むす こうつう ようろ たかせぶね りよう りゅういき
出雲地方と近畿地方を結ぶ交通の要路となり、高瀬舟の利用とあいまって流域

おお はんえい
は大いに繁栄した。

これらは吉井川の要所に点在する常夜灯や西大寺会陽により、当時の繁栄を

しの げんぞん じょうやとう きんせいゆらい えどじだい めいじ
偲ぶことができる。現存する常夜灯は、近世由来のもので、江戸時代から明治

じだい せっち おお よしながわ こうろ あんぜんたいさく ふなわた めじろし
時代にかけて設置されたものが多く、吉井川の航路の安全対策や舟渡しの目印

もくてき しょうわしよき りよう
などを目的として、昭和初期まで利用されていた。

なかでも、旧九幡港常夜灯は規模が大きく、花崗岩の切石だけで築造されて

ひぜん でんどうきてき いしく ぎじゆつ つかが さいだいじ む きたまえぶね
おり、備前の伝統的な石工の技術が伺えるもので、西大寺に向かう北前船はは

おお ふね こうこう みおつくし じゅうよう やくわり は
じめ多くの船の航行に嚮標として重要な役割を果たした。

おかやまけん きんだいかいさん せんてい せとないかいこうろ にぎ みなとまち
岡山県の近代化遺産として選定されており、瀬戸内海航路として賑わう港町

さいだいじ がいこう くばんこう
である西大寺の外港をつとめていた九幡港のシンボルである。

げんしせつ れいわ ねん ていぼうせいび ともな ふつきゅう しせつ
現施設は、令和●年に堤防整備に伴い復旧した施設である。


QR
コード

西大寺活性化
協議会より

令和●年●月吉日 舟入町内会・港町町内会



従前の旧九幡港常夜灯（令和2年時点）



旧九幡港と港内の常夜灯（昭和40年4月撮影）